

橋梁研新聞

平成29年6月16日発行

同窓会号

平成28年3月には5人が卒業され、また4月には社会人ドクター1人、修士一回生2人、学部四回生2人が研究室に加わり、より活気あふれる研究室となりました。研究室のメンバーは左の表の通りです。全員で協力し、切磋琢磨し合い、素晴らしい研究成果を上げられるように、日々努力していきます。



教授	山口
客員教授	長崎 三ツ木
秘書	北見 石田
D2	森山
D1	上野 岑山* 郎
M2	小林 杉本 戸田 馬場 舟山 森下
M1	奥原 白井* 廣澤 藤本* 本多 山本
B4	池田* 竹本*

*新しく研究室に加わったメンバー

グローバル活動

海外留学

27年度には儀賀君がトルコで約1年間のインターンシップを経験されました。28年度には馬場君がドイツで約1年間のインターンシップを経験されました。また現在は舟山君がミャンマーにて留学中です。

シンガポールNanyang Technological Universityとの交流

・ミャンマーでの橋梁計測（ヤダナポン橋梁）
・シンガポールNanyang Technological Universityとの交流
・独日シンポジウム

海外での論文発表表（オランダ・ベトナム・台湾・上海）

研究テーマ

博士

- ・腐食耐久性を向上させた新形状高力ナットの開発（郎）
- ・仮橋橋を用いた緊急架設橋の高力ボルト引張接合を活用した桁連結構造に関する研究（岑山）

修士二回生

- ・パイパス工法を用いた鋼桁継手部の部材取替えに関する研究（戸田）
- ・既設合成桁床版の合理的取替え工法と効果的主桁補強方法に関する研究（小林）
- ・リブ鋼床版横リブ交差部における効果的な下面補強構造に関する解析的研究（森下）

- ・施工性に着目した緊急架設橋の主桁連結部構造最適化に関する研究（杉本）
- ・鋼鉄道橋のカバープレート取替がその力学的挙動に及ぼす影響に関する解析的検討（馬場）

修士一回生

- ・ねじ付きスタッドを用いた合成床版の合理化継手構造に関する基礎的研究（奥原）
- ・高力スタッドボルトを用いた一面摩擦接合の当て板補修に関する実験的研究（山本）

- ・引張荷重を受ける当て板補修部の荷重伝達機構に関する基礎的研究（藤本）
- ・伝統軸組構法における横架材せいの違いが力学性状に与える影響に関する研究（白井）

- ・すべり係数向上のための改良した錆促進剤の高力ボルト摩擦接合継手への適用に関する検討（本多）
- ・内面が腐食した鋼箱桁断面部材の内面からの補強方法に関する基礎的研究（廣澤）

研究ポスターはこちら
<http://brdg.civil.eng.osaka-cu.ac.jp/poster.html>

JSBC（ブリコン）平成28年9月1、2日

群馬県前橋工科大学で開催されたJapan Steel Bridge Competitionに、本学から2チームが参加しました。全国の大学計21チームが参加する中、チームA「Wing Arch」は美観部門優勝、構造部門3位、チームB「たわみ丸」は美観部門2位、架設部門2位、総合部門3位という結果を収めました。大阪市立大学は美観部門3連覇、総合部門2年連続入賞を達成しました。



チームA Wing Arch

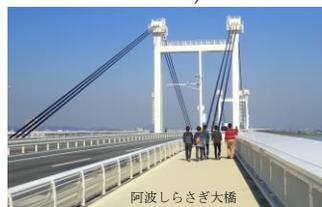


チームB たわみ丸

ゼミ旅行（四国）平成28年11月5、7日

2泊3日でゼミ旅行で四国をめぐる予定です。1日目は阿波しらすぎ大橋、祖谷温泉、高知を巡り、2日目は片岡沈下橋、四国カルスト、道後温泉を巡り、充実した休日をごしました。

また、最終日には、川田工業株式会社の四国工場にお邪魔させていただきました。勉強させていただきました。講習会での橋梁設計に関する講習と橋梁架設工事に関する紹介、本格的な溶接体験と普段体験することができない非破壊検査体験、壮大で繊細な作業風景に研究室一同が圧倒された工場内見学と非常に中身の濃い時間を過ごさせていただきました。

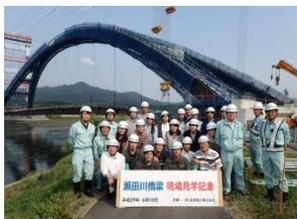


阿波しらすぎ大橋

ぶら土木 平成29年6月10日

土木構造物見学サークル「ぶら土木」を立ち上げました。

第一回目の活動は、滋賀県瀬田川に架設中のバスケットハンドル型ニールセンサーローゼ橋を見学しました。ケーブルエレクション工法を用いた架設現場は迫力があり、いい経験となりました。



就職先

（26年度）JEEエンジニアリング株式会社（27年度）株式会社横河ブリッジ、国土交通省、川田工業株式会社（28年度）JFEエンジニアリング阪神高速道路株式会社、前田建設工業株式会社、西松建設株式会社、五洋建設株式会社